

現段階で推測できた5つのコインとその国と時代

世紀	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18		
勝連城												築城	←		廃城	→		?		
コイン出土												資料No2.5-1.7.8				資料No4				
琉球	貝塚時代後期											グスク時代		琉球王国時代						
日本	弥生時代		古墳時代			奈良時代	平安時代			鎌倉時代	室町時代		江戸時代							
中近東	ローマ帝国		ビザンツ帝国								オスマン帝国									

※この表は、今回出土した資料について周辺諸国との関連性を示すために時代の流れを概略的に作成した図です。

そのため名称・年代は詳細ではありません。

※中近東の時代については、今回係わる国を中心に作成しました。

勝連城の歴史と発掘調査

勝連城は、12世紀から13世紀頃に造られ、海外との交易により14世紀から15世紀にかけて栄えた城です。城は1458年、10代目城主の阿麻和利が首里王府軍により攻め入れられ敗北したことにより廃城し、その後の歴史については17世紀頃まで、周辺の民衆により何らかのかたちで利用されていたとされていますが、詳細はわかりません。

平成12(2000)年には世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産の一つとして登録されました。

発掘調査は昭和40(1965)年に琉球政府文化財保護委員会により開始され、昭和47(1972)年には国の史跡に指定されました。現在、勝連城跡整備事業として文化庁より国庫補助を受け、うるま市教育委員会文化課が発掘調査及び復元整備を進めています。平成24年度からは四の曲輪を中心に発掘調査を実施しており、昨年度までに四の曲輪東区、北区、西原御門付近の発掘調査が終了しています。



スマートフォンやタブレット端末を利用して、城郭内の案内板と連携したデジタルガイドを手軽に受けることが可能です。

史跡のスポット写真や解説、600年前の城内風景、音声ガイドなどのコンテンツも掲載、誰でも容易に勝連城の歴史文化に触れられる作りになっています。

勝連城跡 デジタルガイド

検索